

歌舞伎を観るということ

完 かん

結 むす

編 へん

KABUKI WO
MIRU TO
IUKOTO
FINAL
IN MURAKUNIZA



GUEST
町田康

かぶきを観るということ

in
村国座

2023 6.17 (土)

開場

13:30

未就学児入場不可

椅子席

全席
自由

開演

14:00

入場料

¥3,000

歌舞伎を観ると いうこと

KABUKI WO
MIRU TO
IUKOTO
FINAL
IN MURAKUNIZA

かみかみ
みるということ

国指定重要有形民俗文化財「村国座」において、「歌舞伎」という文化を新たな層にアプローチする企画として、新しい「歌舞伎」の見方や楽しみ方を提案するトークイベントを開催します。昨年に引き続き、小説家・ミュージシャンの「町田康」さんをゲストに迎え、前回トークが盛り上がりすぎて時間切れとなり、持ち越しとなっていた「歌舞伎」方面への話を完結させます。ファシリテーターは、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] の小林昌廣教授。日頃、古典や表象文化論の研究を行っている小林先生から、ゲストの芸能観、人間観、身体観を炙り出してまいります。

完 かん

結 けつ

編 へん

2023 **6.17** (土) **開場 13:30** **開演 14:00**

国指定重要有形民俗文化財「村国座」
(各務原市各務おがせ町 3-46-1 村国神社境内)

GUEST

町田 康

1962年大阪府生まれ。作家。1997年『くっすん大黒』で野間文芸新人賞、Bunkamura ドゥマゴ文学賞、2000年「きれぎれ」で芥川賞。'01年「土間の四十八滝」で萩原朔太郎賞、'02年「権現の踊り子」で川端康成文学賞、'05年「告白」で谷崎潤一郎賞、'08年「宿屋めぐり」で野間文芸賞を受賞。音楽活動も行っている。

FACILITATOR

小林昌廣

情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授

1959年東京生まれ。医学と哲学と芸術を三つの頂点とする三角形の中心に「身体」をすえて、独特の身体論を展開。医学史・医療人類学から見た身体、古典芸能(歌舞伎、文楽、能楽、落語)から見た身体、そして現代思想とくに表象文化論から見た身体などについて横断的に考察している。各地で歌舞伎や落語に関する市民講座や公開講座などを行っている。

TICKET

「販売開始」
4.17 月 **10:00**-
¥3,000 全席自由

未就学児
入場不可

椅子席

「販売方法」

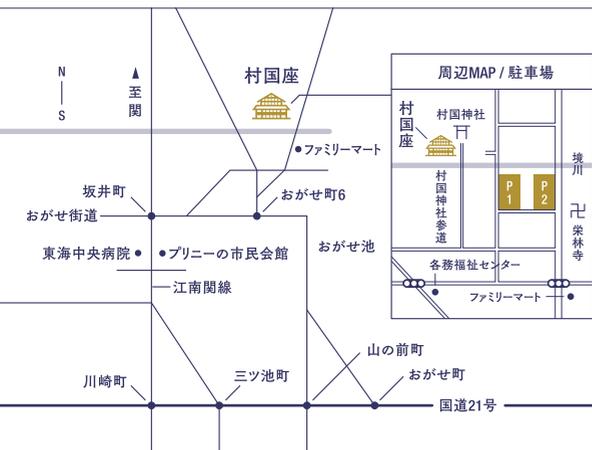
かかみがはら未来文化財団
(各務原市産業文化センター 5階)
8:30~17:00 ※土日祝休み

Peatix オンライン購入

- Peatix オンライン購入をご利用される方はアカウント作成が必要です。
- 個人情報、は本事業のみに使用し、他の目的のために無断で使用することはありません。
- 会場に冷暖房設備はありません。



【問い合わせ】公益財団法人かかみがはら未来文化財団
TEL 058-372-7231
WEB <https://www.kakamigahara-mirai.or.jp>



【場 所】各務原市各務おがせ町3-46-1 村国神社境内
【駐車場】無料 周辺MAP内 P1 P2
【自家用車】国道21号「山の前町」又は「おがせ町」交差点を北へ約10分
【電 車】名鉄学ヶ瀬駅から徒歩30分

村国座について



国指定重要有形民俗文化財、各務の舞台「村国座」は、明治時代に建てられた農村歌舞伎舞台で、廻り舞台を備えた舞台と客席を持つ本格的な地歌舞伎舞台です。130年という長い時間の中で建物が老朽化したため、約3年間の「村国座 平成の大修理」を行い、2009年1月に完成しました。